

持続可能な社会の創り手の育成に向けて

—地域資源を有効活用した社会に開かれた教育課程をめざして—

橋本市教育委員会

1. はじめに

橋本市は、和歌山県の北東端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、北は大阪府河内長野市、東は奈良県五條市に接する緑豊かな田園都市である。市域の北部は和泉山脈が、南部は紀伊山脈から派生する山々が占め、その間を貫くように東から西へ紀の川が流れている。

「橋本」の地名は、天正13年（1585）応其上人が荒地を開いてまちをつくり、その2年後、紀の川に長さ約236mの橋を架けたことが由来となった。また、高野街道と伊勢（大和）街道の交差する交通の要衝として、高野山参詣者の宿場町、産業の集散地として栄えてきた。面積は130.55平方km、人口は令和6年1月31日現在59,381人で、産業としては、豊かな水と温暖な気候を利用して、柿や巨峰を中心とする果樹栽培や養鶏が盛んに行われているほか、養鶏による卵の生産、紀州へら竿やパイル織物は大変有名である。2016年には、紀伊山地の霊場と参詣道の一部として黒河道が世界遺産に登録されている。



紀の川流れる橋本市中心部

2. 教育目標

橋本市では、「第3期橋本市教育大綱（2023年度～2027年度）」を策定し、「人が学びあい、共に育むまちづくり—自治と協働のまち橋本市に向けて—」の理念のもと『豊かな心と健やかな体を育みます』『家庭教育・学校教育・社会教育の中で多様な学びを育みます』『地域・家庭・学校が連携した地域教育力を育みます』という3つの基本方針と、13の重点目標を定めている。重点目標の中でも【持続可能な社会の創り手を育む教育（SDGs・ESD）を地域と協働しながら推進します】、【共育コミュニティと学校運営協議会が連携・協働し、大人も子どもも学びあう場づくりを推進します】という重点目標をつなぎ合わせながら、多様な学びを通して、地域教育力を育むことを推進している。

3. 教育委員会・学校での取組

○橋本市未来プロジェクト（教育委員会 生涯学習課・学校教育課、城山小学校6年）

昨年度から始まった取組で、総合的な学習の時間の出口として位置づけ、橋本市と協働で進めている。総合的な学習の時間の進め方について、地域資源（人的資源、物的資源）を情報提供したり、教科横断的な学びにつなげたり、次代を担う子どもたちが、ESDを通して課題を自らの問題としてとらえ、一人一人が自分に何ができるかを考え、実践し、子どもたちの意見を市長や教育長に提案し、市政に反映する取組となっている。今年度は、総合的な学習の時間で環境について学んでいる城山小学校から以下の内容が提案された。

【紙】紙の収集日増やそうプロジェクト

【空気】花を咲かせて！SDGs

【食品ロス】フードロス

【資源】橋本市オリジナルのエコバックについて

【ゴミ】橋本プロギング大会

【水】節水

【電気】太陽光パネル

未来プロジェクト当日の提案発表だけでなく、事前、事後の学習に行政職員も積極的に関わりながら、県立橋本高校の生徒との交流につなげることができた。また、児童の意見が市議会に反映されている映像を共有しながら、未来プロジェクトの振り返りを行うワークショップも開催することができた。



市長への提案



市長からのメッセージ

○第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ（橋本市立清水小学校6年）

今年度、世界遺産学習全国サミットが和歌山県田辺市で開催されることとなり、橋本市で世界遺産として登録されている「黒河道」を中心に、ポスターセッションで発表した。清水小学校では、地域とのつながりが深く、総合的な学習の時間を中心に6年間を通して、地域資源を活用した学びにつなげている。

様々な世界遺産の調べ学習を通して、より身近な世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」を高野山の現地学習を通して学び、自分たちの最も身近にある世界遺産「黒河道」を自分事としてとらえ、自分たちに何ができるかを考えた。

「知ってもらう」「守る」「つなぐ」をキーワードに、マスコットキャラクターの作成や看板設置、道普請（ゴミ拾い、草刈り）に取り組むとともに、後輩たちに伝える機会や、地域でお世話になっている方への感謝の集いで、学習内容を発表した。



ポスターセッション



後輩に伝える

4. おわりに

コロナ渦も明け、総合的な学習の時間や生活科を核として、地域と協働する機会がコロナ前の姿に戻りつつある。市内全体を見渡すと、令和元年度からすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会の中でも、どのように地域資源（人的資源、物的資源）を子どもたちの学びに活かすことができるかという議論が増えてきている傾向にある。学校運営協議会と共育コミュニティ（地域学校協働本部）の一体的推進を図るとともに、ESDを学びの基盤としながら、市で作成したリーフレット「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」を活用し、学校、家庭、地域、さらには行政がつながり、持続可能な社会の創り手を育てる方向である。